



次代を担う青年のために

## 雲南市青少年育成協議会 設立総会開催

1月19日、市議会会議場で、青少年の健全育成を図り、その活動を推進する組織「雲南市青少年育成協議会」の設立総会が開催されました。

会議に先がけ、速水市長が「旧町村で取り組んできた健全育成活動を継承しながら、地域の青少年が、安心して過ごせる安全なまちづくりを積極的に推進していきます」とあいさつし、議事に移りました。

総会では、協議会役員を選任や今年度の事業計画・予算の審議があった後、島根県警

## 雲南市青少年育成協議会役員

敬称略

顧問	吾郷廣幸・石原憲夫
会長	速水雄一
副会長	吉井 傳・永瀬豊美
常任委員	藤原 洋・安食 厚・芦田道昭・飯塚 稔・錦織敏昭・大田喜久・三木弘道・神庭 誠・高橋文男
監事	榎原富徳・保科正明



察本部少年課の島津敏憲課長補佐から「最近の青少年を取り巻く現状と課題」と題した講演もあり、同協議会委員のほか、市内の教育関係者など約80名が聴講しました。

今後、雲南市青少年育成協議会では、子どもの居場所づくり事業や子ども支援センターなどと連携し、巡回パトロールや各種交流活動を推進していきます。



# 雲南市行財政改革

— 聖域を設けず決断力をもって迅速に取り組みます

1月25日、第3回雲南市行財政改革推進会議が市役所で開催されました。会議では、前回に引続き、行財政改革大綱案について議論が行われました。

また、市側から、行財政改革を進めていくための実施計画策定について説明があり、意見交換が行なわれました。

ここでは、会議での行財政改革推進委員からの意見や提言を紹介しします。

### 委員からの意見要旨

#### 行財政改革大綱について

◆市民の理解を得るためには、どのような自治をつくるのかという目標を明確にすることが重要。政府の諮問機関の委員からは、地方交付税を今後大幅に減らし10年後には制度をなくすという発言もある。こういうことを考えると、根本的に地方自治の仕組みを変える決意が必要。今のサービスや職員を少し削れば良いという話ではなく、なっているし、

その時に見通しが甘かったでは済まされない。

◆「生命と神話が息づく新しい日本のふるさとづくり」によって、こんなまちづくりをするということの説明が必要。それがないと、協働というところが、都合が悪くなってきたから市民と一緒にやりますという行政の自己都合的なものとして受け止められるのではないかと。本来の協働のあり方についても明確にしなければいけない。

◆改革をしないと市民が一番困ることになるといふこと

#### 実施計画の策定について

◆地方行財政を取り巻く情勢についてももう少し記述を補強すべき。合併しても以前より財政状況は悪くなり財政非常事態に陥った。合併時から現在、そして将来に向けた地方交付税の動向などを説明し、市民と危機感を共有する必要がある。

◆将来目標を明確にすることが重要。どのような状態を5年後につくるかという目標を明確にして取り組むことが必要。

◆受益者負担について考えるとき、例えば保育所の場合、受益を得るのは子どもとその家族だけなのか。少子高齢化で国が騒いでいるときに、そこでしっかりと子どもが育っていく、安心して育てられるというのは家族だけの受益なのか社会全体なのか。その考え方によって税金を使っているかどうかが違う。社会的にどうするかを考える必要がある。

◆他の市町村と比べて補助費が大変多い。補助金の考え方について検討が必要。例えば、団体などを立ち上げるときは大変だから補助金を出すとしても、それから5年後には自立できる計画をもってやるなどの方法もある。公平にこの問題を扱う仕組みをつくる必要がある。

◆お金が無いからなんでもかんでも止めてしまおうというのでは、市民は安心して暮らしていけない。お金が無いけれど、このことは大切なことだから何とかして頑張るって確保しますと打ち出しているならば、じゃあ他のところはがまんしなきゃい

けないねという気持ちが出るのではないかと。

◆スピードが改革の大きなテーマである以上は、実施時期は年度単位だけでなく、半期、四半期でできるものは積極的に取り組むべき。また、試行なども取り入れるべき。

◆地方自治ということを考えれば、何もかも国や県に準じなくてもよいのではないかと。今までいろいろ国や県に準じてやってきた結果として財政危機に陥ったのに、また同じように繰り返すのかという気がする。

◆項目ごとにカード（個票）を作成すべき。現状、課題、方策、18年度には何をやって、21年度にはどんな状態にするのかなど、フォーマットを明確にして統一した形にしていくべき。

◆所管の部・課単位の単体でのコスト削減、合理化の発想だけではなく、縦割りを打破した多面的な取組も必要。お金は減っても機能はアップさせるという発想が必要。



## ふるさと教育フェスティバル

豊かな心を育て、ふるさとへの愛着を培う「ふるさと教育」に関する教育フェスティバルが、1月20日、三刀屋文化体育館アスパルで開催されました。

島根県教育委員会が主催した今回のフェスティバルは、出雲教育事務所管内（出雲市・雲南市・斐川町・奥出雲町・飯南町）の小中学校児童、教育関係者、地域住民などが集い、意見交換や学習発表、パネルディスカッションなどを行いました。

学習発表では、地元の三刀屋小学校児童が「踊りや太鼓」



「ひと・もの・こと」にふれ、地域が一体となり、ふるさとへの愛着と誇りをもてる子どもたちを育む「ふるさと教育」を積極的に推進していきます。

また、会場では、管内の小中学校や公民館でのふるさと教育活動の成果がパネルで展示されたほか、子どもたちの発表を見守る多くの保護者の姿も見られました。

今後も、雲南市教育委員会では、ふるさとの

を披露、田井小学校の全校児童は、地域に伝わる伝統文化について学んだ成果を発表しました。